

高妻(たかづま)

登録番号：第3003号

登録年月日：平成4年1月16日

登録者：山越幸男（長野県長野市篠ノ井市東福寺1917）

育成者：山越幸男

来歴：「ピオーネ」と「センチニア」の交雑実生

育成地：長野県長野市

特性

■栽培特性

樹勢は「巨峰」よりやや強である。幼木期の生育は新梢成長が旺盛であるが、成木期には樹勢は落ち着く。葉の大きさは大であり、葉形は五辺葉で裂刻は「ピオーネ」に似て深い。花穂は大きく、花房の着生は並であるが、「巨峰」と同様に樹勢が著しく強い場合や前年の着果過多の場合には悪くなる。結実性は良好で、「巨峰」より結実は良好である。しかし、結実性は開花時の温度条件の影響が大きいと思われ、低温の場合には、無核果の混入や種子の入りが悪くなる傾向がある。その他の特性は「ピオーネ」に類似する。

開花期は長野県で6月中旬で、「巨峰」よりやや遅く、「ピオーネ」と同時期である。

■果実特性

果穂の形状は「ピオーネ」と同様の有岐円錐形であり、果房は「巨峰」と同様の円筒状に整形されることが多い。着粒は中程度である。果粒形は短楕円形で、大きさは極大(16g程度)と大粒になる。しかし、結実時の温度条件が良好でないと、種子の入りに差異が生じ、果粒の大きさにばらつきが生じる。果皮の色は紫黒色、厚さは厚く、裂果性は「ピオーネ」なみで少ない。果肉は中間型で不着色、果皮と果肉の分離は「ピオーネ」なみのやや難である。糖度は18%程度、酸度は0.4%程度で食味は良好である。香気はフォキシー香があるとされているが、「巨峰」なみにほとんど苦にならない。種子の入りは中程度で、形は大きい。脱粒性は少ない。

成熟期は晩生で長野県では10月上旬で「巨峰」より1～2週間遅く、「ピオーネ」とほぼ同時期である。

■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

病虫害の発生は「巨峰」「ピオーネ」よりやや少なく、やや強いと思われる。したがって主要な病害はこれら品種と同様なべと病、うどんこ病、暖地では灰色かび病、晚腐(おそぐされ)病防除がポイントとなる。害虫発生は通常防除でよい。

樹勢は樹齢が若いうちは旺盛であるが、樹齢が進むと低下するので、幼木期は徒長させない弱せん定を行う。

果皮の着色は暖地でも容易であるが、着果過多になると着色が不良になるので極端な大房防止と適正着果を励行する。

結実は良好であり、植物調節剤の結実促進剤は不要と思われるが、「巨峰」なみの結実確保技術は励行した方が栽培が安定する。

この品種は無核化が可能である。「ピオーネ」と同様なジベレリン処理で無核化できる。その場合の果実は「ピオーネ」とほぼ同様である。

■地域適応性

「巨峰」に比べて花振るいが少なく、栽培適地は「巨峰」とほぼ一致し、東北地方中部から九州までのぶどう栽培地に適する。現在、群馬県(2.7ha)、熊本県(2.5ha)で作られている。
(茂原 泉)